長尾福祉会報

令和４年４月１日
第45号

認定こども園長尾学学舎の子ども達

ー長尾福祉会理念ー　障害をもっていても　もっていなくても　男も女も
「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」といえる
社会づくりをめざします。

～ごあいさつ～

新型コロナ感染症が拡大するにつれて、ご利用者に対しサービスの制限や利用時のお願いをすることもあり、ご利用者の中には徐々に利用を控える人も増えてきました。そこで見えてきたのが、以前のように外に出る機会が減り、足腰が弱ったり、会話することも減ることで認知症が進行したりするご利用者などです。一概に根拠があるものではありませんが、少なからず関連があるように思えます。

近代の福祉サービスは、多くの知識と経験を活かし、近くに生活する人の困りごとを察知し、専門職と連携協働しながら制度と結びつけ、寄り添うサービスを提供することが求められます。しかし、今は寄り添うどころかご高齢者に会うことすら敬遠され配慮が必要になっています。

例えば「デイサービスに行って頑張ってリハビリしよう」とか、「いつもいる職員やご利用者と会話をしたい」という動機と、実際に行くまでの準備をする過程は、なによりも生活リハビリになっているのです。このような機会が奪われて早２年、この状況を憂うばかりではなく、一日も早く収束することを願いたいと思います。

社会福祉法人長尾福祉会　理事長　**森田　浩之**

社会福祉法人は、「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、社会福祉事業の安定的・継続的経営に務めるとともに、多様な生活課題や福祉需要に柔軟かつ主体的に取り組む公共的・公益的かつ信頼性の高い法人です。

のぞみ園

楽しい合同余暇

生活支援員　浜崎　寛子

9月21日、合同余暇を行いました。東京オリンピック、パラリンピックにちなんで、運動をテーマに実施しました。

水遊び、シャボン玉、円筒投げ等を行いました。外へ出る機会が以前より減っていることもあり、皆さん時間いっぱい各コーナーを回っていました。おやつはくじ引きのパンと飲み物で「おいしい」と嬉しそうでした。

制限のある中ですが、これからも皆さんの楽しめる活動を実施していきたいです。

サンタさんがやってきた

生活支援員　大津　奈津美

12月23日にクリスマス会を行いました。

その日の昼食はクリスマスメニューで、いつもとは違うクリスマスらしい料理が出て、皆さんおいしく舌鼓。食後は各寮でクリスマスパーティーを行いました。ゲームやカラオケ、ドライブ等それぞれで楽しい時間を過ごしました。おやつで食堂に集まり、ケーキとシャンメリーをおいしく頂きました。そこへ皆さんお待ちかねのサンタさんとトナカイさんが登場。プレゼントをもらい皆さん満足そうでした。

コロナ禍の為、皆さん集まってのパーティーは難しかったですが、楽しい一日となりました。

みんなでがんばったおもちつき

生活支援員　立石　本子

年末恒例のぞみ園もちつき大会、今年もお客様を招待することはできませんでしたが、12月26日、利用者さんと職員のみで開催、みんなで元気にお餅をつきました。

お餅をつくのも丸めるのも年々上達しているようで、とてもきれいなお餅が出来上がりました。味もおいしく、皆さん喜ばれていました。来年はお客様を招待出来ると嬉しいです。

男子 待ちに待ったバス外出

生活支援員 白川 直樹

12月に男子寮で「道の駅・源平の里むれ」へバス外出を実施しました。広場を散策し、海が見える場所で集合写真を撮りました。展示してある電車を興味深そうに見たり、運転席に座ったりと、利用者の皆さんは楽しまれていました。店内では好きなお菓子やジュースを買い、車内でおいしく食べました。短い時間ではありましたが、天候に恵まれ、「また行きたい」と笑顔で話され、良い思い出になりました。

女子 みんなだいすきおやつ作り

生活支援員 棚田 真衣

12月に女子寮でおやつ作りを行いました。今回のおやつ作りでは、ふわふわのシフォンケーキに生クリームとクッキーをトッピングしました。一人ひとりが盛り付けたものは、どれもボリューム満点!!会食の際は、大きな口を開けあっという間に完食されていました。「おいしかった」という声がたくさん聞かれました。皆さんの笑顔がたくさん見られ、楽しい時間を過ごしました。

南寮 まつりだまつりだ、秋まつり

生活支援員 岩田 俊輔

10月に中庭にて「秋まつり」を行いました。テントを張ってフランクフルトや、射的、金魚すくい等の屋台を出しました。天気も良く、利用者の皆さんは楽しんで参加されていました。一番盛り上がったのはお菓子のくじ引きでした。好きなひもを引っ張り、ひもの先にはそれぞれ違うお菓子が付いています。希望通りのお菓子が当たった人、当たらなかった人、皆さん最後はおいしそうにお菓子を食べていました。利用者の方からも「楽しかった」との声が聞かれ、来年も行いたいと思います。

通所 カルタ取り

生活支援員 浜崎 寛子

1月初旬、お正月遊びとしてカルタ取りを行いました。カルタは読み札、絵札ともに利用者の手書きです。職員と内容を考えながら作成しました。内容が自身の身近な話題の物が多く、字を読むことが苦手な方でも絵を見ながら絵札を取る姿が見られました。又、ルールも理解されており、懸命に絵札を探す姿に職員も感心させられました。これからも季節の遊びを取り入れていきたいです。

のぞみ児童デイサービス事業所

こぐまちゃんのホットケーキ

保育士 西 詩織

以前までは昼食作り等の調理体験を積極的に取り入れていましたが、収束の見通しが立ちにくいコロナ禍のため再開は依然と難しい状態が続いています。感染対策をしっかり行った上で少しずつ様子を見ながらまずはおやつ作りを再開しました。

「のぞみのおやつ作りといえばホットケーキ」と子どもたちの中でのイメージが浸透してきているほど作り方を覚えられるようになっていたり、慣れた手つきでホットケーキを裏返すこともできています。食事面において苦手なものがたくさんある子もみんなと一緒なら興味深々で参加し、活動の楽しさを味わえているようです。

難しい環境下ではありますが、子どもたち達が安心・安全に楽しくのびのびと様々な経験を増やせるような活動をこれからも行っていきたいと思います。

認定こども園 高松くりの木學舎

「初めての体育発表会☆」

れもんぐみ（2歳児）保育教諭　須藤　真由美

初めてのリトミックで、ピアノの生の音に興味を惹かれ、音を感じて走る、止まる、歩くのが面白い！楽しい！という子どもたちの姿があり、そんな様子から体育発表会では『あきかぜさんぽ』というストーリー仕立てで、ピアノに合わせ身体全体で表現するリズム遊びをしました。ピアノの音を聞いて、ネコやカエルになったり突然の雨で走って逃げたりと一人ひとりが自分の感性で自由に動いていました。そしていつの間にか一人二人と手を繋ぎ、歌を口ずさみながら歩き始める姿が増える様子を見た時は、2年余りの共同生活で培われていた仲間意識に成長を感じました。いろんな人の中で刺激を受け、豊かな感性を育みその子らしい成長を応援したいと思っています。

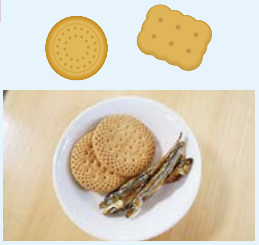
「初めてのクッキング」

そらぐみ（3歳児）保育教諭　上野　紗都

お家の人に買ってもらったエプロンや三角巾を持ってきてもらうと、友だち同士で見せ合ったり、保育者に「買ってくれたんだよ」と笑みを浮かべながら話してくれる子どもたち。待ちに待ったクッキー作りの始まりです。

小麦粉、砂糖、マーガリン、バニラエッセンスを混ぜ生地を作りました。普段、小麦粉粘土であそんでいたり、芸術士の先生と小麦粉粘土を焼いた経験から子どもたちは躊躇なく形にしていきます。一人分に分けると、1つの長いヘビを作る子もいれば、いくつかに分けて丸やハートなどの形にする子など様々です。手のひらを使って生地を伸ばしたり指先を使って作る姿が見られました。最後にはフルーツミックスゼリーやいちごジャムをトッピングしました。お昼寝の間に給食の先生に焼いてもらい完成！「これは食べていいの？」と初めて食べられるクッキーに目を丸くして美味しそうに頬張っていました。

これからも身近な食材に触れながら自分たちで作る喜びを感じ、楽しくおいしく食べる意欲へとつなげていきたいです。



「イメージを広げ表現していく中で育つもの　～劇あそび～」

かぜぐみ（5歳児）主幹保育教諭　山口　あけみ

12月に発表会がありました。いつも何かする時は内容を子どもたちと決めていきます。10月のデイキャンプで海に行った印象が強かったようで、話し合っていくうちに「スイミー」をしようということが劇の始まりでした。お話しを繰り返し読み、何度もごっこ遊びをしていくことで、場面に合ったセリフが出てくるようになってきました。自分がやりたい役をイメージしていく中で「うなぎってどんな動きしてるんかなぁ」との意見から、海の中の生き物を観察しに水族館へ。実際に魚を観察したことで、海の中の様子や自分の役への関心やイメージが広がっていきました。場面の役の気持ちを考えながら演じることも話し合いながら、発表会当日は見てもらう喜び、演じることの楽しさを発揮出来た1日となりました。

共通の目的に向かって見たことや感じたことを友だちと共有しながら進めていくことで、生活の中で感じたことや思い巡らせたことを表現する過程を楽しみ、喜びを味わい意欲が高まっていきます。それは今後工夫して創造的な活動を生み出していく力となっていくことでしょう。発表会を通して、目に見えない心の育ちを感じることが出来ました。

「昔ながらの行事」

くり，Sキッチン調理師　藤井　晶子

昨年末、懐かしい臼と杵を使って、もちつきを行いました。

かぜぐみは、小さい杵を持ち、もちをつきました。他のクラスは、もちつきを見学しました。初めてもちつきをした子どもたち、見た子どもたち、貴重な体験になったと思います。

ついたお餅は、小さく丸め、うみぐみ、かぜぐみはきなこもちにして食べ、あとは、鏡餅にしました。家では見ることのない二段重ねの大きい鏡餅でした。初めてお餅を食べた子どももいたそうです。

年始は、お節料理の中から、黒豆、きんとん、田つくりと、七草がゆを提供しました。きんとんは、パイン缶を入れて、フルーツきんとんにし、七草がゆは、七草に、青菜を加えて、子どもたちが食べやすいよう工夫をしました。

これからも昔ながらの伝統のある行事の体験を大切にし、食育を意識した給食づくりに取り組んでいきたいと思います。

認定こども園
長尾學舎

「楽しみいっぱい　遠足」

ほしぐみ（3歳児）　廣松　奈那子

今年はコロナウイルス感染予防のため、親子遠足ではなく保育の一環として各クラスで遠足を実施しました。

晴れ晴れとした青空のもと、遠足に胸を躍らせていた子どもたち。クラス別に長尾駅や牛舎の見学・うしおじさん・三木町ぼうけんパーク・峰山公園など行き先は様々でした。特に動物との触れ合いは、普段の保育に取り入れることのできないとても貴重な体験であり、子どもたちの表情も喜びに満ち溢れていました。

たくさん遊んだ後は待ちに待ったお弁当。キャラクター弁当や好きなものが詰まったお弁当に目を輝かせ「ママが作ったお弁当美味しい！」「見て！お星さまの形しとる」などの声が飛び交い、あっという間に完食してしまいました。

「笑顔あふれる生活発表会」

ひかりぐみ（0歳児）　藤﨑　永津子

今年度の生活発表会は、子どもたちの発達段階に合わせ、2日に分けて行われました。11月20日は、0歳、1歳児クラス。日々の保育を保護者に見ていただこうという思いから、それぞれの保育室で親子一緒に触れ合って遊べる内容での発表会でした。12月4日は、2歳～5歳児クラス。ステージでは、リトミックで培ったリズム感を披露した歌や合奏、クラスでの絵本の読み聞かせを通して空想が広がる、劇やオペレッタを力強く演じてくれた子どもたちです。園での生活発表会は、毎日の保育の延長線上にあります。ドキドキしながらも、子どもたち自身が笑顔で楽しみ、見つめている保護者や保育教諭も笑顔があふれた素晴らしい時間となりました。

「第三回　運動会　～みんなできんめだるめざして　ちからいっぱいがんばるうんどうかい～」

ひかりぐみ（0歳児）　中村　友紀

みんなが楽しみにしていた運動会！今年度は保護者が見守る中、無事に開催することが出来ました。子どもたちは「今日も練習する？」とやる気に満ち溢れ、毎日一生懸命練習に取り組んできました。

「ママ達見てくれているかな？」と、ドキドキわくわくしながら迎えた本番。子どもたちは練習以上の姿を見せてくれました。今年で長尾学舎最後の運動会を迎えたぎんが組さんはパラウェーブに挑戦しました。二人一組で細い布を持ち、「1・2・3…」とリズムを取りながら様々な技を繰り広げ、最後には全員で一つの大きな布を完成させました。みんなで力を合わせて練習に取り組み、本番で大成功を収めた後の〝できた！〟と自信に満ち溢れる姿には感動しました。一人ひとりが目標に向かって頑張るなど、運動会を通して成長したことをこれからの活動へ繋げていけたらと思います。

「長尾学舎子育て支援センター　にじいろ」

子育て支援員　木内　亜由美

「にじいろ」は未就園児のお子さんと保護者へ、月曜日から金曜日の（祝日を除く）9時～14時迄、長尾学舎の子育て支援室を開放しています。

さぬき市でも、最近は県外出身の保護者が増えてきています。核家族や新型コロナウイルス感染症の影響でますます子育てが孤立し、子育てへの不安感・負担感をお持ちの保護者も多いように感じます。

「にじいろ」では、2名の専任スタッフが、「第2のお母さん」として、温かい雰囲気やほっとできる居場所作りに心がけ、親子のお友達づくりのお手伝いや、子育てへのアドバイスや支援をしています。また、のぞみ園の公認心理師や社会福祉士などの職員と連携し、発達相談を実施する日もあります。専門知識を持った職員と話せる場は、保護者にとっても心強いようです。

他には、子育てが楽しくなるようなイベントを毎月実施しています。パンやお菓子作りの講座や子育てに関する講座で一緒に学んだり、ヨガで心身ともにリフレッシュしたりしています。イベントを通じて地域の人と関わりをもてることも大切にしています。

また、デイサービスセンター亀鶴のご利用者へ「にじいろ」の子ども達手作りの工作をプレゼントするなどの交流も行っています。

これからも地域の子育て支援を活性化し、子育て中の保護者が気軽に参加できる癒しの場所として、また子どもたちの健やかな成長のお手伝いをしていきたいと思っております。

特別養護老人ホーム
ゆたか荘

ゆたか荘開荘22周年によせて

施設長　朝倉　裕子

3月1日、ゆたか荘開荘22周年を迎える事ができました。施設の名前通り「心ゆたかに、老後ゆたかに」の想いを込めて、家庭的な温かい雰囲気を大切にしながら、多職種協働でのチームケアや重度の認知症の方への専門的なケアを提供させていただいております。ご利用者はもとより、地域の皆さまにも信頼される施設運営をこれからも続けていきたいと思います。

コロナ禍の中、例年のように開荘記念行事として外部の方をお呼びして盛大な催しができませんでしたが、心のこもった美味しいお祝い膳を囲んで、笑顔溢れる時間を過ごすことができました。

来年度もご利用者の皆様が、日々生きがいや喜びが感じられる暮らしが続けられますように、職員一同、より一層の努力してまいりますので、よろしくお願い致します。

長尾小学校車椅子体験

副施設長・地域連携担当　髙村　えりこ

福祉啓発活動として毎年実施している、長尾小学校3年団への車椅子体験学習を12月17日に行いました。車椅子の操作説明を行った後、7グループに分かれ体験していただきました。子どもたちからは「車椅子に乗っている人の気持が分かった」「車椅子を自分で動かすのは大変」「声を掛けてもらうと安心する」などの意見が聞かれ、実際に自分たちが体験し多くの事を学んでもらえる機会となりました。これからも、地域福祉に根付いた活動を続けていこうと思います。

節分豆まき？

1階介護職員　篠　芳孝

節分邪気を払い健康長寿を願う行事を行いました。

例年と違い感染症予防対策を強化し、行ったので残念ながら皆さまが集まって豆を投げるという事は叶いませんでしたが、替わりに、鬼の恰好をした職員が昼食を配膳し、皆さまと記念撮影を行うなどの交流が図れました。ご利用者皆様が福の神のような笑顔で応えて下さり、その笑顔で邪気が払われました。

来年こそ鬼（感染症）が払われ幸せが内（ご利用者様）に来るように願っています。

職員紹介

～介護の仕事に就いて感じた事～

1階介護職員　阿部　稜平

私が、ゆたか荘で働かせて頂くようになってから数カ月が経ちました。介護の世界で働くのは今回が初めてで、どのような世界なのかわからず不安でいっぱいでしたが、働かせて頂くと、大変ですが施設長をはじめ沢山の方々が声を掛けて下さり、みなさんに支えていただきながら、その不安も少しずつなくなっていきました。すごく働きやすい環境だなと感じたのが入ってからの最初の印象です。ご利用者の方からの『ありがとう』と言う言葉はとても嬉しく、また頑張ろうという気持ちにさせてもらえます。これからもご利用者の方が笑顔で過ごせるように職員の方々と頑張ろうと思います。

デイサービスゆたか

毎週のレクリエーション

デイサービスセンターゆたか　三木　嘉昭

デイサービスセンターゆたかでは、ご利用者の皆様には日々のご利用を楽しんで頂くために、毎日午後からレクリレーションを行っています。

週ごとに違ったレクリレーションを行い、身体を動かす事を中心としたものや、脳トレなどご利用者に合わせたことを幅広く行っています。

職員が声かけや一緒に行うことで、ご利用者との達成感を共有する事ができ、やる気にもつながっています。

今後もご利用者の皆様と時間を過ごしていく中で、皆様の変わらない笑顔に喜びを感じつつ職員一同邁進していきたいと考えております。

高齢者複合施設　ハーティヴィラ亀鶴
デイサービスセンター

デイ通信はこうしてつくられます

デイサービスセンター・ケアスタッフ　松本　真人

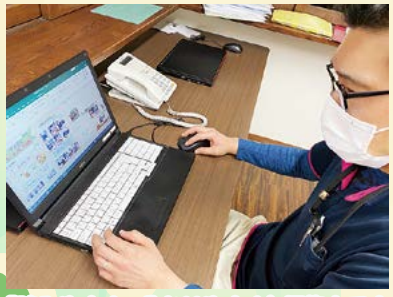
ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンターでは、ご利用者の皆さまのご利用時の様子を家族様にもお伝えできるよう、月に一度「デイ通信」を発行しています。

ご利用者の方々の笑顔はもちろん、脳トレやゲームに集中されている時や、体操やリハビリに励まれる真剣な表情も、担当職員はたくさん写真に収めています。すべての写真をデイ通信に掲載することはかないませんが、手元に残っている写真の数々は、わたしたち職員のかけがえのない思い出であり、今後のモチベーションにもつながっています。

ご利用者の皆さまの、生き生きとした表情があるからこその「デイ通信」です。これからも楽しい紙面づくりにご協力いただけると嬉しく思います。

いい表情！カメラマンは見逃しません

毎月楽しみにしてくださり
ありがとうございます♡



「読みやすく、分かりやすく」編集中です

職員みんなで内容を見直します

ご利用者のお顔を思い浮かべながら、
配布の準備

発行●社会福祉法人 長尾福祉会
発行者●森田 浩之
ホームページURL https://nagaofukushikai.jp
法人本部●さぬき市昭和1032／TEL 0879-52-1727／FAX 0879-52-1728

Hearty Villa KIKAKU
ハーティ ヴィラ 亀鶴

ハーティヴィラ亀鶴 ショートステイセンター

「顔晴る介護」を応援します

ショートステイセンター・ケアスタッフ
八十岡 英樹

「顔晴る」という言葉をご存じでしょうか。これは「頑張る」という言葉を言い換えた造語です。人が頑張っているときにはイキイキとしており、その表情が曇ることなく晴れていることから、頑張ることを「顔が晴れる」＝「顔晴る」と表現し、この言葉が誕生しました。

介護も同じではないでしょうか。ショートステイではご利用者の生活を第一に考えております。ですが、同時にそれを支えるご家族の生活も大切に考えております。頑張りすぎると歯を食いしばり、顔はこわばってしまいますよね。頑張りすぎたとき、笑えなくなってしまったとき、そんなときはどうぞショートステイをご利用ください。

ショートステイは「頑張る介護」ではなく「顔晴る介護」を応援します。

● ケアプランセンターゆたか ●

～「自分らしい生活」を応援します～

センター長　鎌倉　節子

ケアプランセンターゆたかでは、現在５名の介護支援専門員が相談業務を行っています。

「介護のことで悩んでいる」「ひとりで困っている」ということはありませんか。

お一人おひとりに合った暮らし方を、一緒に考えていきます。お気軽にご相談ください。

ケアプランセンターゆたか
住所：さぬき市長尾西 1602-1
電話：(0879) 23-6518
(受付時間)
月曜日～金曜日　午前 8:30 ～午後 5:30
◎ご相談の費用は、無料です。

ご支援ありがとうございました

かねとう歯科様
なの花薬局様
ヌーベルさんがわ様

のぞみ児童デイサービス 第2事業所開設されました

のぞみ園　園長　**岡 慎也**

令和４年４月よりのぞみ児童デイサービス第二事業所が開設されることになりました。

障害児分野のサービス及び療育の強化、拡大をはかり今後も地域のニーズにしっかり応えられるよう取り組んでいきたいと思います。

編集後記

新型コロナウィルス対策であわただしく過ぎる毎日でも、春は確実に訪れます。季節の中でも春が一番ワクワクします。桜が咲くこの季節、心を新たにして笑顔あふれる1年にしたいですね。感謝の心を忘れずに、長尾福祉会の「今」をお届けします。

（のぞみ園　溝渕）